

『古今著聞集』「刑部卿敦兼の北の方」(文法)

刑部卿敦兼は、みめのように憎さげなる人①なりけり。その北の方は、はなやかなる人なりけるが、五節を見Aはべりけるに、とりどりにはなやかなる人々のあるを見るにつけても、まづわが男のわるさ心憂くおぼえけり。家に帰りて、すべてものをだにも言はず、目をも見合はせず、うち側向きてあれば、しばしは、何事の出で来たるぞやと、心も得ず思ひる②たるに、しだいに厭ひまさりて、かたはらいたさほど③なり。先々のやうに一所にもあらず、方を変へて住みはべりけり。

ある日、刑部卿出仕して、夜に入りて帰り④たりけるに、出居に火をだにも灯さず、装束は脱ぎたれども、畳む人もなかりけり。女房どもも、みな御前の目引きに従ひて、さし出づる人もなかりければ、せん方なくて、車寄せの妻戸を押し開けて、ひとりながめぬたるに、更闌け、夜静かにて、月の光、風の音、ものごと身にしみわたりにて、人の恨めしさも取り添へておぼえけるままに、心を澄まして、筆篋を取り出でて、時の音に取り澄まして、

籬のうちなるしら菊も　うつろふ見るこそあはれなれ

我らが通ひて見⑤し人も　かくしつっこそかれに⑥しか

と、繰り返しうたひけるを、北の方聞きて、心はや直り⑦にけり。それよりことに仲らひめでたくなりけるとかや。優なる北の方の心なる⑧べし。

問一 傍線部①～⑧の助動詞の意味と活用形を答えなさい。

問二 傍線部Aについて、敬語の種類と誰から誰への敬意か答えなさい。

【解答欄】

問一

⑦	⑤	③	①			
				⑧	⑥	④

問二

	から	
		へ

刑部卿敦兼は、みめのよに憎さげなる人①なりけり。その北の方は、はなやかなる人なりけるが、五節を見Aはべりけるに、とりどりにはなやかなる人々のあるを見るにつけても、まづわが男のわるさ心憂くおぼえけり。家に帰りて、すべてものをだにも言はず、目をも見合はせず、うち側向きてあれば、しばしは、何事の出で来たるぞやと、心も得ず思ひる②たるに、しだいに厭ひまさりて、かたはらいたきほど③なり。先々のやうに一所にもあらず、方を変へて住みはべりけり。

ある日、刑部卿出仕して、夜に入りて帰り④たりけるに、出居に火をだにも灯さず、装束は脱ぎたれども、畳む人もなかりけり。女房どもも、みな御前の目引きに従ひて、さし出づる人もなかりければ、せん方なくて、車寄せの妻戸を押し開けて、ひとりながめぬたるに、更闌け、夜静かにて、月の光、風の音、ものごとにしみわたりにて、人の恨めしさも取り添へておぼえけるままに、心を澄まして、篋を取り出でて、時の音に取り澄まして、

籬のうちなるしら菊も うつろふ見るこそあはれなれ

我らが通ひて見⑤し人も かくしつっこそかれに⑥しか

と、繰り返しうたひけるを、北の方聞きて、心はや直り⑦にけり。それよりことに仲らひめでたくなりけるとかや。優なる北の方の心なる⑧べし。

問一 傍線部①～⑧の助動詞の意味と活用形を答えなさい。

問二 傍線部Aについて、敬語の種類と誰から誰への敬意か答えなさい。

【解答欄】

問一

⑦	完了	連用形	⑧	推量	終止形
⑤	過去	連体形	⑥	過去	已然形
③	断定	終止形	④	完了	連用形
①	断定	連用形	②	存続	連体形

問二

丁寧	作者	から	読者	へ
----	----	----	----	---